

人権尊重の精神を礎に子供たちの成長を支える学校を目指す

令和6年4月1日

東京都立しいの木特別支援学校長

濱渦 孝治

本校のホームページを御覧いただき、ありがとうございます。

本校は、昭和44年に知的障害児施設東京都養育院千葉福祉ホーム（現 東京都千葉福祉園）に入所する児童・生徒の就学を保障する目的で開校した、施設提携型の都立特別支援学校です。以来、55年間に渡り、様々な事情により施設で生活する児童・生徒の学習を支援してきました。昭和59年からは、袖ヶ浦のびろ学園に入所する児童・生徒も本校に在籍し、150名を超える児童・生徒が学ぶ時期もありましたが、今年度は、4月1日現在、小・中・高等部で20名が在籍しております。令和6年度末の東京都千葉福祉園の児童寮完全閉寮に伴い、本校は、設置の役割を終え、閉校いたしますが、都立中野特別支援学校の分教室として教育活動を継続してまいります。

学校生活を通して、児童・生徒が主体的に人権課題について考え、人権尊重の精神を身に付けると共に、我々、教職員も児童・生徒を支援し、学習活動を進める上で、人権について深く学ばなければならないと考えています。本校は昨年度まで取り組んできた人権尊重教育推進校の成果を活かし、更に人権感覚を高め、人権尊重の精神を礎に教育活動を行ってまいります。

本校の児童・生徒は、家庭から離れて生活をしています。児童・生徒が安心して自分の考えや気持ちを伝えられる環境が必要であり、一人一人の思いを受け止め、心の居場所となる担任や学年集団が必要です。また、児童・生徒の生活を支える両施設と連携し、連続した支援体制を整備するとともに、学校と施設以外にも生活圏域を広げるため、地域において社会体験や社会貢献活動などを通して、地域の方にも子供たちを見守っていただくことが必要であると考えています。今年度も学校、施設、地域が一体となり、「チームしいの木」として、子供たちを育ててまいります。

保護者の皆様、東京都千葉福祉園、袖ヶ浦のびろ学園、地域や関係機関の皆様の御理解と御協力を賜りながら、しいの木の子供たちが生きる力を身に付け、夢と希望を抱き、社会参加への道を着実に歩めるよう、引き続きの協力をお願いいたします。

生きる力を身に付け、夢と希望を抱き、社会へ

